

平成23年行政事業レビューシート

(外務省)

事業名	在外公館査証担当臨時職員等関係経費	担当部局庁	領事局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成19年度開始	担当課室	外国人課	課長 早川 修			
会計区分	一般会計	施策名	IV-3 外国人問題への対応強化				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第13項 外務省組織令第40条	関係する計画、通知等	・新成長戦略(IV観光立国・地域活性化戦略) ・ワーキング・ホリデー査証に関する日韓政府間の協定				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	在外公館においては、繁忙期(夏休み、正月休み等)には査証申請量が急増するところ、このような状況下においても問題のある外国人の入国を阻止するとの観点から、慎重な審査が必要である。他方、規制改革の観点から迅速な審査を求められていることから、審査の質を確保しつつ、迅速な審査を維持するために査証審査体制を確立する必要がある。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	訪日外国人旅行者数の多い公館においては、繁忙期(夏休み、正月休み等)に事務量が急増するが、問題のある外国人の入国を阻止するための慎重な審査のためにインタビューや関連書類の真偽確認を実施したり、規制改革の観点から迅速な審査を体制を確保することが難しい状況である。一方、こうした繁忙期においても審査の質を確保し、かつ、迅速な審査を維持するために査証審査体制を確立する必要がある、比較的単純な作業に臨時職員を当たらせ、現地職員を査証審査の補助等に当て調査業務等に専念させることにより、精度の高い審査体制を確立している。なお、韓国との間では、「ワーキング・ホリデー(WH)査証に関する協定」に基づき平成11年からWH査証を発給しているところ、在韓国大使館では関連業務が増大しており、同大使館における臨時職員の雇用にかかる経費。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		当初予算	3	9	12	12	10
		補正予算	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	
	計	3	9	12	12	10	
	執行額	8	8	10			
執行率(%)	251.1	90.6	87.3				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	本事業は査証業務を円滑に実施することを目指すものであり、定量的な指標を示すことは困難であるが、対前年比10%増の査証発給数にも対応可能とすることを目標とする。			増加数	120,178	-82,441	432,117
			達成度	%	111.68	92.83	140.51
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	対象公館(平成22年度:13公館)における査証発給件数			活動実績 (当初見込み)	件	1,148,970 (1,131,671)	1,066,559 (1,263,867)
単位当たりコスト	6.81円/件		算出根拠	10,208千円÷1,498,676件=6.81円/件			
平成23 (単位:千円) 内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	領事業務関係謝金 (在外公館査証担当臨時謝金)	11,905	10,208				
	計	11,905	10,208				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	－	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	本件経費の支出にあたっては、在外公館の査証業務が厳格かつ円滑に実施できるよう、現地の状況を踏まえつつ必要最小限の支出となるよう留意している。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		事業見直しによる減	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減(事業見直しによる減)			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

外務省
10百万円

〔 査証事務補助業務 〕



臨時職員(13名)
10百万円

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。費目
 と使途の双方で
 実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
恒事業務関係係附金 (在外公館査証担当臨時謝金)	査証事務補助業務	10			
計		10	計		
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	臨時職員A	査証事務補助業務(延べ9名)	2	－	－
2	臨時職員B	査証事務補助業務(延べ8名)	2	－	－
3	臨時職員C	査証事務補助業務(延べ33名)	1	－	－
4	臨時職員D	査証事務補助業務(延べ9名)	1	－	－
5	臨時職員E	査証事務補助業務(延べ9名)	0.8	－	－
6	臨時職員F	査証事務補助業務(延べ9名)	0.8	－	－
7	臨時職員G	査証事務補助業務(延べ9名)	0.7	－	－
8	臨時職員H	査証事務補助業務(延べ9名)	0.5	－	－
9	臨時職員I	査証事務補助業務(延べ9名)	0.5	－	－
10	臨時職員J	査証事務補助業務(延べ9名)	0.5	－	－